

経営学は実践にどのように役立つか（４）

人々の間のさまざまな関係

前回、社会とは人間と人間の間に織りなされる関係性のことを指し、そこにはさまざまな関係性が織りなされていて、そのそれぞれの特殊な関係性を対象に、社会科学の各学問領域が生み出されてきていることについて触れました。

以下、そのそれぞれの関係性は具体的にどんな関係なのか、というお話です。（この点、古いですが、別冊宝島社から 1993 年に発刊された『社会学入門』の見田宗介氏のわかりやすい解説が大変参考になります。以下の記述でも少し参照しています。）

好き嫌いの関係

もっとも身近な例として、例えばある人が他の人を「好きになる」ことを考えてみましょう。これも 1 つの関係性です。好きとか嫌いとか、人間の“心”の関係です。こうした人間の心の問題を取り扱う学問領域として、心理学があります。

心理学は社会科学よりも人文科学に含められることの方が多いですが、社会心理学という下位領域があり、心理学は人間の関係性を取り扱う社会科学の一分科としての側面ももっています。

では、社会科学の代表選手である法律学や政治学、経済学についてはどうでしょうか。

秩序の関係

まず、法律学について考えましょう。法律学は、社会の機関でいえば「裁判所」の行動について研究する学問です。裁判所は何をすることでしょうか。皆さんご存じのように、裁判所は、例えば社会の人々が罪を犯した場合に、法律に基づいて判決を下すところです。人々は、社会生活を営んでいく上でどういう行動をとれば法律に触れて罰せられることになるかを意識せざるを得ないわけで、そういう認識のもと、どこか法律を頭の片隅に置きながら自分の行動を適宜コントロールしているわけです。

したがって、簡単にいってしまえば、人々がこうした法体系を意識し、秩序を保っている社会の仕組みについて学ぶのが法律学であるといえます。要するに、法律学は「秩序の関係」として人間と人間の間の関係を分析しようとするわけです。

権力の関係

では次に政治学をみてみましょう。政治学は何の行動について研究する学問かといえば、単純化すれば「政府」の行動を研究する学問領域であるといえるでしょう。

政府の活動は、外交や軍事といった活動もありますが、いちばん重要なのは行政活動（文字通り、政治を行うこと）です。政府が市民に強制力を発動して服従させることを、“国家

権力”という、あまり耳障りのよくない言葉で呼ぶことがあります。政治学では人々の間の関係性は、基本的にこうした「権力の関係」として捉えられています。

政府には、行政活動をするための役人（官僚）が居て、役人を支えるのが市民です。市民が、選挙で役人を選んだり世論を発信したりしながら役人の行動をコントロールし、政治を動かしているメカニズムを研究するのが政治学であるといっているでしょう。

金銭の関係

経済学ではどうでしょうか。経済学は、単純化するというなら「企業」の行動を研究している学問であるといえます。企業は、さまざまな財やサービスを作り出し、それらを売ったり買ったりする経済活動をしています。もちろん、企業以外にも政府や一般市民（消費者）も経済活動に従事するのですが、市場における経済活動の主役は企業です。

ですから、経済学の研究対象は、企業を中心に、政府や家計などが売買行為をする場である市場での金銭的な繋がりであるということになります。つまり、人々間の関係を、すべて金銭的な価値に換算して分析しようとするのが経済学的なものの見方なのです。

一定の関係性に着目

このように、社会科学の各領域では、人々の織りなす多種多様な関係性に着目して分析がなされていて、以上で見たようなある一定の特殊な関係性に着眼して社会科学の各領域はそれぞれ発展を遂げてきたのです。

遠回りになりましたが、次にいよいよ経営学における人々の関係性をどうなのか見てみることにしましょう。

株式会社インソース <http://www.insource.co.jp/>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-19-1 神田橋パークビル 5 階

TEL : 03-5259-0070 FAX : 03-5259-0075